

## 平成29年度 家庭教育支援活動一覧

### ○事業実施市町および取組教育支援活動 7市町15活動

	市町名	地域人材の養成	家庭教育支援チームの設置・活動	学習講座・行事等の実施
1	近江八幡市	○	○	○
2	草津市			○
3	甲賀市	○	○	○
4	湖南市		○	○
5	高島市	○	○	○
6	日野町	○		○
7	竜王町			○

### ○教育支援活動の内容

#### 【地域人材の養成】

	市町名	講座数	習得を期待する能力	養成後の活動の場所
1	近江八幡市	3	・より客観性を持った視点で現状を見る ・関係機関との連携、人材の紹介、発掘 ・研修などの企画、提案	・主に学校における相談活動や研修会等の企画 ・関係機関や家庭に赴き、課題解決に向けた取組
2	甲賀市	5	・手遊びや絵本読み聞かせ等のスキル ・ボランティアとしての意識向上・心構え ・子育てサポーターとしての基礎知識	・ブックスタート、園での読み聞かせ ・乳幼児おはなし広場、はじめまして親子広場
3	高島市	1	・地域住民との関係づくりに役立つ能力	・子育て支援者や地域の民生委員として活動
4	日野町	5	・子どもの発達や遊びについての知識 ・子育てや家庭での教育について相談に応じるための力	・親子プレイステーション、つどいの広場、子育てサロン等、親子が集う場所での支援

#### 【支援チームの設置・活動】

	市町名	人数	年間活動 日数	主な活動内容		
				学習機会の提供・コーディネート	サロン・相談対応	家庭訪問による支援
1	近江八幡市	9	198(延べ)	○	○	
2	甲賀市	10	45(延べ)	○		
3	湖南市	5	245(延べ)	○	○	○
4	高島市	16	144(延べ)	○	○	

#### 【学習講座・行事等】

	市町名	実施 学校区数	開催回数	活用する行事等の機会 ※1	講座の概要 ※2
1	近江八幡市	9	20	⑤⑥	②
2	草津市	7	45	①④⑤	⑥⑫
3	甲賀市	8	39	④⑥	①③④⑤⑪⑫
4	湖南市	4	6	④⑤⑥	⑤⑥⑩
5	高島市	13	30	⑥	⑪⑫
6	日野町	5	40	②⑤⑥	①③⑥⑩⑪
7	竜王町	2	6	⑤	②③⑩⑫

※1 ①乳幼児健診 ②就学時健診、③入学説明会 ④保護者会、参観日 ⑤PTA研修会等 ⑥単独開催

※2 ①発達段階の特徴や親の心得 ②保護者同士の交流や子育てに関する意見交換会 ③生活習慣、食育  
④遊び、運動 ⑤道徳心・思いやり、命の大切さなど心の育成 ⑥インターネットや携帯電話等 ⑦お小遣い・消費生活  
⑧いじめ、不登校、非行、問題行動の対応 ⑨虐待 ⑩子育て・家庭教育への男女共同参画 ⑪乳幼児とふれあい  
⑫その他

「平成29年度事業計画書・実践事例」より

## 近江八幡市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

本市には、三世代以上が同居している家庭、核家族家庭、単親家庭など様々な家庭がある。その中で地域に根ざした生活をしている家庭もあれば、周りとの関係性が少なく、孤立傾向にある家庭も少なくない。そのため、日々の子育てや家庭教育の中で不安や悩みをかかえたまま子どもと向き合う保護者もいる。保護者自身が抱える課題も多岐にわたり、関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合も少なくないが、誰かが少し寄り添い話を聞くことで、不安や悩みを軽減できる場合がある。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

各小学校や地域で子どもや保護者の様子を共有した家庭教育支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくることにより、保護者支援の一助となり、家庭や地域との関係性の中で生きにくさを感じている保護者の不安や課題を軽減できるようにする。そのことが安定した子育てにつながるようにする。

### ■本年度の活動

#### （１）市内９小学校において家庭教育支援チームによる活動の展開

- ・定期的な支援チームでの情報共有会議
- ・保護者対象の子育てに関する講座の実施
- ・各学期の参観行事や懇談会時におしゃべりサロンの実施

#### （２）市家庭教育推進協議会

- ・各市立保幼こども園、子どもセンター、小中学校への子育てや家庭教育にかかるアンケートの実施、集計、資料提供
- ・各関係課の取組と課題について

#### （３）その他

- ・家庭教育支援員対象の研修会案内や会議の開催



【家庭教育推進協議会】



【消費者教育研修会】

### ■本年度の成果

- ・サロンに参加して、気軽に話せたという保護者も各校であった。
- ・家庭教育支援チームを昨年度８小学校から今年度９小学校に配置できた。
- ・各小学校における家庭教育支援チームの取組（保護者へのPRの仕方やサロンの持ち方など）に少しずつではあるが工夫が見られた。
- ・子育てや家庭教育に関する学校としての相談の様子を傾向として示すことができた。
- ・限られた家庭教育支援チームであったが、教育委員会として会議の様子を直接参観することができた。

### ■今後の課題

- ・市として関係課との連携をどのように組織立てをしていくか。
- ・家庭教育支援員や家庭教育支援チームが機能的に運営されるため、教育委員会としてサポート内容や方法を検討する。
- ・本事業における近江八幡市の家庭教育支援のターゲットをどのように定めていくのか。

## 小学校は家庭教育支援のプラットフォーム

近江八幡市	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援チームの設置・活動</li> <li>■ 学習講座・行事の実施</li> </ul>	
講座数（年間活動日数）	39 講座（40日）

家庭教育支援チーム数	( 9 ) チーム
家庭教育支援員数	( 9 ) 人
子育てサポーター等	( 1 ) 人
実施開始年度 (H21 年度)	実施学校区数 ( 9 小学校区)

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成

家庭教育支援員の資質向上や情報交換のため、市で会議・研修会を開催している。

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動

各小学校に、校長、教頭、教育相談担当、生活指導担当、主任児童委員、家庭教育支援員等を構成員とする家庭教育支援チームを設置し、学校や管理職の指示や助言、相談を得ながら情報を共有し、家庭教育支援活動を行えるよう努めている。また各学校の状況に応じた活動を行っている。

#### ○学習講座・行事の実施

家庭教育支援員が、家庭教育支援チームの一員として学校と密に連携しながら、各小学校で保護者の交流の場や教育講演会、各種行事などを行っている。市教委は、支援員対象の研修会や会議等を開催している。

### ■ 特徴的な活動内容

#### (1) サロン「おしゃべりカフェ」の開催

各小学校ではサロンを開催し、参加した保護者同士がお互いの悩みや不安を出し、家庭教育支援員や教員に気軽に相談できる取組をしている。

#### (2) 講座の開催

講師を招いて、食育に関すること、スマホ・ケータイなどネット使用に関すること、親として子どもとのかかわりに関することなど、子育て講座を開催している。

#### (3) 親子活動

保護者だけでなく、親子でものづくりや作業を体験したり、親子で学習する場を設定するなどしたりして、親子や地域住民との交流から、みんなで子育てをする意識を高める機会を持つ取組もある。

### ■ 実施に当たっての工夫

○学校行事等の後に事業を行うなどして、参加者の負担軽減・参加者の確保に努めている。

○家庭教育支援員間の横の連携や情報交換、市教委からの情報提供をとおして、コーディネーターとしての資質向上に努めている。

○家庭教育支援チームを作り、校長の理念に基づいて家庭教育支援員が学校と一体となって家庭教育支援活動に取り組めるようにしている。



【サロン「おしゃべりカフェ」】

### ■ 事業の成果

○比較的悩みの軽い保護者が、サロン等の場に来て相談、交流することにより、悩みの軽減と保護者同士のつながりが生まれている。

○参加人数を少人数として対象とテーマを絞り、子どもの活動記録を提示するなど、参加しやすくする工夫が見られる。

○家庭教育支援員を中心とした家庭教育支援チームで、学校・家庭・地域の情報を共有、連携を意識している。コミセンとの協力を進める学校もでてきた。



【子育てに関する講座】

### ■ 事業実施上の課題

○家庭教育支援員の活動時間数が限られており、事業展開が難しい。

○家庭教育支援チーム会議の日程調整が難しい。

○このような事業に参加しにくい保護者へのはたらきかけをどのようにしていけばよいか。

## 草津市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

本市においては、市制施行（昭和 29 年）より、一貫して人口が増加しており、子育て世帯や核家族、新たに本市に転入される子育て世帯も多く、家庭環境の変化や地域での人間関係の希薄化などから、子育てに悩む保護者も多い。家庭で子どものよりよい生活習慣を形成するため、社会的ニーズにあった家庭教育支援を推進していく必要がある。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に家庭教育の重要性を改めて認識してもらうため、情報提供を広く行うとともに、身近な地域において、すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、学校や関係部局等と連携し、保護者への学習機会の提供を実施することにより家庭教育の推進を図る。

### ■本年度の活動

#### （１）家庭教育学習事業費補助金

家庭教育力の向上のため、家庭教育に直接関わりのある市立幼稚園・こども園、小学校、中学校の各単位 PTA に対して、子どもたちを取り巻く現状や課題・解決方法、子育ての手法、保護者同士の繋がりの中から生まれる学習等の家庭教育学習事業に対して、補助金を交付することで各単位 PTA における特色のある家庭教育学習事業を支援。

#### （２）家庭教育出前講座

家庭で子どもが心豊かに成長し、よりよい生活習慣を確立するため、各単位 PTA や地域住民と一緒に考える場として、市職員が出向いて実施するタブレット PC 体験（今年度はプログラミング体験）や青少年の現状などをテーマにした「家庭教育出前講座」を関係部局と連携して実施。

#### （３）家庭教育サポート事業

家庭教育に関する保護者向けの学習機会を提供することにより、家庭における教育力の向上を目指す取組を実施。学校と連携した保護者のニーズにあったテーマで学習会の実施や、1歳6カ月の乳幼児健診の場を活用し、乳幼児期から家庭読書の大切さを図書館と連携して啓発を実施。

#### （４）家庭教育に関する情報発信

市広報誌において、家庭教育に関することをテーマに掲載し、家庭教育の大切さを啓発。また、家庭教育サポート事業実施時は、テーマにあったチラシや資料を配布することで情報発信を行う。

### ■本年度の成果

本年度から福祉部局および図書館と連携した乳幼児健診の場を活用した家庭教育支援を実施。家庭教育に関心が薄い保護者への啓発に取り組むことができた。

### ■今後の課題

- ・各単位 PTA 等への家庭教育に関する相談機能の充実
- ・家庭教育出前講座のメニューの見直しや活用促進
- ・家庭教育支援チーム活用など、支援体制の構築検討



【家庭教育サポート事業（家読）】

## 草津市家庭教育サポート事業～コミュニケーションで育む家庭の力～

草津市	
活動内容 <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	9講座（ 44日 ）

家庭教育支援チーム数	（ 0 ）チーム
家庭教育支援員数	（ 0 ）人
子育てサポーター等	（ 0 ）人
実施開始年度 （H26～）	実施学校区数 （ 7小学校区 ）

### ■ 活動の具体的内容

#### ○学習講座・行事の実施

家庭で子どもたちが基本的な生活習慣や善悪の判断をはじめとした生きる力の基本となる能力を身に付けるため、保護者向けの学習機会の提供や情報発信することにより、家庭の教育力の向上を図るとともに子どもとのコミュニケーションの大切さを啓発。

- ・実施小学校7校と連携して、授業参観や学校行事等の保護者が集まる機会の前後に保護者のニーズにあった学習会を実施。
- ・月に3回ある1歳6カ月の乳幼児健診の場を活用し、乳幼児期からの家庭読書の大切さを啓発する「絵本deうちどくサポート広場」を実施

### ■ 特徴的な活動内容

#### ○学校と連携した家庭教育サポート事業

##### <今年度実施したテーマ>

- ・図書館司書による講話「子どもと一緒に本を楽しむ方法」「図書館の楽しみ方」「障害者（児）理解が易しくわかる本」や、読書と情報モラルのテーマを組み合わせた「絵本から気づく子どもとの向き合い方」など
- ・少年センター職員による情報モラル教室「子どもたちとネット社会」
- ・外部講師を招いた子どもの自尊感情に関する講座「子どもの意欲を引き出すコッソリ怒るのに疲れたアナタへ」



【家庭教育サポート事業（自尊感情）】

#### ○1歳6カ月の乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業

##### <絵本deうちどくサポート広場>

- ・健診の待ち時間に読み聞かせの啓発DVDを上映
- ・たくさんの絵本を展示し、親子で絵本に触れてもらう
- ・月の最後の健診時には、図書館司書による読書相談を併せて実施
- ・乳幼児期からの家庭読書に関する啓発チラシを受診者に全員に配布



【絵本deうちどくサポート広場】

### ■ 実施に当たっての工夫

- 学校と連携した家庭教育サポート事業においては、担当教諭との調整を密にして、保護者のニーズにあったテーマで学習会を実施。また、実施時にはテーマに合った内容の啓発チラシを作成し配布。学んだことを持ち帰ってもらえるように工夫。
- 乳幼児健診の場を活用した家庭教育サポート事業においては、たくさんの絵本を展示することで子どもの関心を引き、健診の待ち時間に親子で読み聞かせを楽しむことができる場となるように工夫。

### ■ 事業の成果

- 参加者アンケートでは、「本を通して子どもと関わっていききたい。（家庭読書）」や「子どもとコミュニケーションの時間を持つことを心がけたい。（情報モラル教室）」、「子どもの気持ちを聞く」ということにとっても共感した。たくさんコミュニケーションをとりたい。（自尊感情）などの感想をいただき、どのテーマでも家庭でのコミュニケーションの大切さを啓発することができた。
- 乳幼児健診で実施している家庭教育サポート事業の参加者アンケートでは、「親が本を選ぶと偏ってしまいがちなので、1歳半くらいの子が喜ぶ本を色々見ることができて良かった。」や「静かな本屋や図書館に行く機会が少ないので参考になった。」などの感想をいただき、図書館と連携しておすすめの本を用意することで、色々な本に触れていただく機会なり、また日頃子どもと本を楽しむ時間がなかなかとれない保護者の方にも、親子で本を楽しむきっかけづくりとすることができた。

### ■ 事業実施上の課題

- 学校と連携した家庭教育サポート事業では、授業参観や学校行事の前後など保護者が参加しやすい時間帯に実施したが、なかなか参加者が集まらない時もあったため、時間、場所、参加者を募集する際の案内チラシを工夫して、多くの方に参加していただけるようにすることが課題。また、実施時間も実質40分から50分程度となるため、テーマによっては時間が短いとの声を聞かれるため改善が必要。

## 甲賀市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

未就園児対象の事業(乳幼児おはなし広場、はじめまして親子広場)は、入園の低年齢化や子育て支援事業と重なるため、参加者が少なくなっている。

園等で開催する子育て親育ち講座では、毎回参加保護者から好評をいただいているが、講座に参加してほしいと感じている保護者の参加にまでは至りにくい。

相対的に子どもへの向き合い方や自身の育児に悩む方は多いが、家庭教育の講座や広場への参加は少ない。参加への広報活動の工夫が必要である。

### ■家庭教育支援で目指す姿(課題解決のために・・・)

家庭教育サポーター、ブックスタートサポーターの育成・登録・活動により、地域の家庭教育支援の意識を高め、市と地域が協力して子育て世代のサポートができるようにする。

子どもにとって家庭が一番安心できる場所でいられるように家庭の軸である保護者に働きかけていく機会を設ける。親(時には祖父母)から愛されていると子どもが感じ、自尊感情を高めていける家庭教育支援を目指す。

### ■本年度の活動

- (1) ブックスタート事業、乳幼児おはなし広場、  
園での読み聞かせ活動【ブックスタート関係】
- (2) はじめまして親子広場、親子ふれあい絵本広場、  
いきいき孫育て講座、子育て親育ち講座(園・小学校)  
【家庭教育関係】



【いきいき孫育て講座】

### ■本年度の成果

ブックスタートは開始から8年経過し最初の対象児が小学校に入学している。第2子以降が誕生し、事業に来られた方々から「赤ちゃん絵本をもらえて良かった。」「どんな絵本を選んだら良いかわからなかったのが良かった。」と好評であった。

「いきいき孫育て講座」の参加者が去年の約2倍となり、アンケートでも「もっと聞きたかった。」などの意見も多く好評だった。参加者は、働く父母が増え、代わりに保育園の送迎や小学校に通う孫の面倒をみたり、遠方でなかなか会えない孫とのかかわり方で悩んだりする方が多かった。今後ますますニーズが高まると思われる。

### ■今後の課題

未就園児親子対象の講座や広場は子育て支援事業と重複するため参加者が移行していくと思われる。反対にサポーターの参加事業が当課では限られてくるので各課に分かれている登録の一本化が望ましい。また、親力アップのためにサポーターの存在は欠かせず、多くのサポーターが活動に参加しやすくするため、フォローアップ講座等を充実していくことが必要である。



【はじめまして親子広場】

## “親力”アップをめざして～甲賀市の家庭教育支援～

甲賀市	
活動内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援チームの設置・活動</li> <li>■ 学習講座・行事の実施</li> </ul>	
講座数（年間活動日数）	5講座（現在32日） ※ブックスタート関連事業は除く

家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
家庭教育支援員数	( 1 ) 人
子育てサポーター等	(ブックスタートサポーター34・ 家庭教育サポーター9計43) 人
実施開始年度 (※H23)	実施学校区数 ( 16 小学校区)

### ■ 活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成

ブックスタートサポーター養成講座(全3回うち1回実地見学)  
 子育てサポーター養成講座(基礎編3講座 実践編2講座)

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動

はじめまして親子広場(年間8回)  
 家庭教育サポーター会議(年3回)

#### ○学習講座・行事の実施

親子ふれあい絵本広場(年間1回)  
 いきいき孫育て講座(3回連続講座)  
 子育て親育ち講座小学校(8校枠うち2校実施予定)  
 子育て親育ち講座保育園(27園枠うち16園実施済みまたは予定)  
 ※家庭教育事業のみ

### ■ 特徴的な活動内容

- 子育て親育ち講座(8小学校)
- いきいき孫育て講座(全3回連続講座)

### ■ 実施に当たっての工夫

- 子育て親育ち講座小学校では現行の児童向け命の授業の他に、親向け・親子向けの食育、運動、絵本など内容の幅や対象を広げた。
- 「いきいき孫育て講座」のチラシはこれまでの公民館、図書館、シルバー人材センター、支所以外にも商業施設、病院に配置した。また、「親子ふれあい絵本広場」のチラシも公民館、図書館、子育て支援センター、支所、保育園以外に商業施設にも配置した。

### ■ 事業の成果

- 親子で聞く食育の講座の依頼があった。(子育て親育ち講座)
- 「いきいき孫育て講座」の参加申込者が昨年の約2倍に増えた。  
参加者からは開催時間が短かったとの意見をいただくほど好評だった。

### ■ 事業実施上の課題

- 校長会で7月に周知してもらっているが、学校からの申し込みが11月以降となり調整が難しい。  
また、講座内容の充実や講師依頼において検討が必要である。(子育て親育ち講座)
- 開催場所や日の決定において、働いている祖父母世代からは土日にしてほしいとの要望があった。  
図書館等での開催も視野にいれている。(いきいき孫育て講座)



【ブックスタートサポーター養成講座】



【子育て親育ち講座 保育園】

## 湖南省における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

核家族化や地域社会のつながりの希薄化等を背景として、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が多忙で孤立してしまうなど、家庭教育が困難な現状がある。ひとり親家庭の増加や貧困など、家庭教育を行う上で困難な社会で、家庭環境が多様化している中、子どもが学校生活に容易に適応できないといった困難を抱える家庭が増えている。

### ■家庭教育支援で目指す姿(課題解決のために…)

保護者自らが家庭教育の主体であるという意識を持ちつつ、地域をはじめとしたさまざまな人とのつながりの中で、一緒になって家庭教育を行っていくという協働の関係により家庭教育支援に取り組むことで、家庭教育支援に関わる者の学びの深まりと成長が促される。孤立した子育てではなく、他の子育てを知り協働することで子育てに幅と広がりができ、子どもの育ちを豊かにすることができる。

### ■本年度の活動

#### (1) 家庭教育支援チームの設置・活動

##### ①菩提寺小学校…チーム名「ほっとルーム」…チームによる支援

コーディネーター(支援員) 1名 子育てサポーター 2名

- ・不登校傾向や教室に入れないなどの児童の保護者支援(平成12年～児童支援から実施)
- ・保護者対象に毎週水曜日13:00～15:00「菩っこはうす」で「ほっとサロン」を開設

##### ②三雲小学校…「みくもっ子支援委員会」への位置付け 広義のチームによる支援

コーディネーター(支援員) 2名…保護者の信頼を受け、家庭へ「訪問型支援」を実施

- ・不登校傾向児童、支援の必要な児童、孤立傾向にある家庭と学校との繋がりをつくる。

##### ③石部小学校…チーム名「さんぽ」…チームによる支援

コーディネーター(支援員) 1名

- ・保護者の日頃の悩みを少しでも取り除き気軽に相談できる場の設定
- ・保護者対象に毎月10日、20日、30日 子育てサロン「さんぽ」を開設

##### ④菩提寺北小学校…チーム名「あすなるカフェ」…チームによる支援

コーディネーター(支援員) 1名

- ・子育てで孤立しないように不安を抱く保護者が気兼ねなく話せる支援の場の設定
- ・保護者対象に各週水曜日10:00～12:00 13:00～15:00「あすなるハウス」で「あすなるカフェ」を開設

#### (2) 学習講座・行事等の実施 【子育て講演会の開催】

平成29年11月15日(水) 石部小学校 会場:石部小学校

講演:「がんのことを考えてみませんか」 講師:平松 彩氏(ファイナンシャルプランナー)

平成29年12月6日(水) 菩提寺小学校 会場:菩提寺小学校「菩っこはうす」

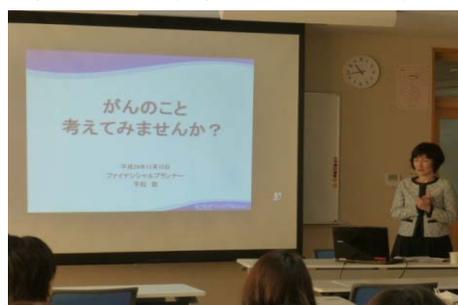
講演:「ちょっと聞いてくださいますか?」 講師:武藤 敬助氏(ヴォーリズ学園教育顧問)

### ■本年度の成果

支援員や子育てサポーターは、保護者と悩みを受け止め、学校と情報を共有し、子どもへの支援の糸口を見つけ出すようにしている。また、学校での子どもの様子を保護者に伝え、学校、家庭の連携・協働の有効な相談対応、情報提供を進めている。

### ■今後の課題

専門的な知識や豊富な実践経験のある講師を招いて魅力ある講座等を企画し、子ども支援にかかる研修の機会をより多くの人に提供していきたい。



【石部小学校 子育て講演会】



【「あすなるカフェ」での様子】

## 保護者と子どもに寄り添い、見守り続ける湖南省の家庭教育支援

湖南省	
活動内容	
<input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input checked="" type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	4講座（47日）

### ○家庭教育支援チームの設置・活動

#### <菩提寺小学校>毎週水曜日「ほっとサロン」の開設

##### ■活動の具体的な内容

「ほっとルーム」のメンバーを中心に、子育てや親子間の悩みや心配事を一緒に考える居場所作り、仲間作りの手助け、子どもの寄り添い支援の活動を行っている。

##### ■特徴的な活動内容

活動拠点の『菩っこはうす』において、学校休業日の毎週水曜日の午後、主に保護者を対象に「ほっとサロン」を開催。

事業開始前から子どもに寄り添う活動を行っていた「ほっとルーム」のメンバーが、活動の柱となって活動しているので、学校と家庭をつなぐ役割も担っている。



【茶話会形式で「ほっとサロン」】

##### ■実施に当たっての工夫

毎週水曜日の午後「ほっとサロン」を開催していることにより、保護者が行きたい時に行きたい場所になっている。支援員だけでなく以前から「寄り添い支援」で関わりのあった方に子育てサポーターとしてサロンの運営を手伝ってもらい、寄り添う児童の様子を担当に伝え、家庭へと情報が行くようにしている。

##### ■事業の成果

「ほっとサロン」を訪れた保護者は、雑談を交えながら日頃の不安や悩みを話すことにより、気持ちをリフレッシュさせて子育てに向かわれている。開催日に、下校途中の児童が『菩っこはうす』に立ち寄り、束の間のふれあいはコーディネーター（支援員）と児童との交流も生まれている。

##### ■事業実施上の課題

保護者の関心があるようなテーマで子育て講演会を開催したが、その運営が難しい。しかし、参加者の感想を伺うと概ね好評なので、講演会自体の関心を持ってもらえるような工夫が必要である。

#### <三雲小学校>定期的な「訪問型家庭教育支援」の継続

##### ■活動の具体的な内容

「みくもっ子支援委員会」の中に位置づけた家庭教育支援。不登校傾向児童や支援の必要な児童や保護者、孤立傾向にある家庭との繋がりを作る個別対応と訪問型による保護者支援を重点を置いて活動している。

##### ■特徴的な活動内容

支援員が毎日の登下校の見守りから校外外で多くの児童とかわりを長期に継続させている。不登校傾向の児童、支援の必要な児童には、訪宅を含めた個別の支援を継続している。

家庭教育支援チーム数	(4) チーム
家庭教育支援員数	(5) 人
子育てサポーター等	(2) 人
実施開始年度 (H24, 26, 27, 28) 年度	実施学校区数 (4小学校区)

##### ■実施に当たっての工夫

児童の支援にあたっては、学校、学童保育所、主任児童委員、民生児童委員、地域総合センターとの連携を図り、情報を共有することで支援体制を充実させている。

##### ■事業の成果

時間をかけて地道な活動を続けてきたことで、確実に児童や保護者との信頼関係を構築している。段階的な支援を行うことで不登校傾向児童を登校につなぐことができた例もある。

##### ■事業実施上の課題

個別対応、訪問型では時間をかけた支援が必要であり、限られた活動時間だけでは難しくなっている。

#### <石部小学校>子育てサロン「さんぽ」の開設

##### ■活動の概要

地域の協力を得て、保護者の悩みを少しでも取り除けるような交流の場、子育てサロン「さんぽ」を設置（石部小学校コミュニティルーム）。保護者の子育て学習の機会を提供している。

##### ■特徴的な活動内容

- ・子育てサロン部屋「さんぽ」の設置  
毎月10日、20日、30日（行事、休日と重なれば前後の日）。
- ・子育てサロンの案内を毎月作成し、発信。

##### ■実施に当たっての工夫

子育てサロン「さんぽ」は、保護者同士が趣味を広げ交流を深められる、誰もがができる作業や活動を進めながら行う中で、温かい雰囲気づくりを心がけている。

#### <菩提寺北小学校>隔週水曜日「あすなろカフェ」の開設

##### ■活動の具体的な内容

子育てに対する不安や悩みを気兼ねなく話せ、子育てで孤立しないように保護者への支援の場をつくるために、「あすなろカフェ」を開設。（菩提寺北小あすなろハウス）

##### ■特徴的な活動内容

- ・「あすなろカフェ」の開設  
毎月各週の水曜日の午前10:00～と午後13:00～各2時間

##### ■事業の成果

「あすなろカフェ」が何でも話せる場として、リピーターも増え、少しずつではあるが保護者にとって安心できる場所として定着しつつある。

### ○学習講座・行事等の実施

##### ■活動の概要

参加者が子育てについて研修する機会として学習講座・行事等を開催している。

##### ■特徴的な活動内容（代表的な事例）

- 平成29年11月15日（水）9:30～11:40
- ・場所 石部小学校 会議室 ・参加者 20名
- ・講師 平松 彩 氏（ファイナンシャルプランナー）  
「がんのことを考えてみませんか？」

## 高島市における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

近年、少子化や核家族化により、保護者が家庭で子育てについて知識を深める機会が減っている。また、少子化と地域の間関係の希薄化に伴い、住民が地域の子どもに関わる機会が少なく、地域における教育力も弱まってきている。それにより、子育て世代が気軽に相談できる相手が不足し、家庭教育力の低下が進行している。

### ■家庭教育支援で目指す姿（課題解決のために・・・）

子育てを終えた世代が子育て世代を支援する体制の構築と、地域全体で子育てをする機運の醸成により、保護者が安心しゆとりをもって家庭での子育てを行えるよう支援する。

また、各種講座の開催により、日々変化する情報社会と子育ての関わりについて啓蒙し、現代の家庭教育で何が問題となりどのような支援が求められているのか知る機会を提供する。

これにより、保護者と地域が子育てに対してより高い問題意識を持ちつづけ、教育の原点としての家庭が子どもの「生きる力」を育む場として機能することを目指す。

### ■本年度の活動

#### （１）高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

子どもの育ちを地域で見守り、保護者の相談相手となるべく、組織化された家庭教育支援チームの支援活動を推進している。月３回のひろば開催により、子育てや家庭教育に関する相談対応、学習機会の提供など、定期的な活動を実施している。

#### （２）共育学習会

絵本の読み語り（読み聞かせ）をとおして、親と子の関わり大切さや、読書が持つさまざまな効果を保護者が学ぶことを目的に、市内各地域で研修会を開催した。

#### （３）子どもにどうかかわりあうか講座

市内の園・学校と連携し、公民館の出前講座として保護者を対象に実施している。子どもの発達段階に応じて「その時期に大切にしたいこと」などのテーマを設け、子育て学習の機会を提供した。

#### （４）地域教育力向上講座

子育て世代、子育てに関わる職業や委員など広く地域から参加者を募り、現代の子育てに関わりの深くなったスマートフォンについて、子育てシーンでの使用について考える講座を実施。

### ■本年度の成果

家庭教育支援チームによるひろば開催を増やすとともに、開催地域を移動することで、広く保護者の支援を行えるよう実施した。

### ■今後の課題

家庭教育支援チームの体制強化、福祉部局等との連携強化。

## 家庭と地域が一体となって、子どもの「生きる力」を育む場に

高島市	
活動内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域人材の養成</li> <li>■ 家庭教育支援チームの設置・活動</li> <li>■ 学習講座・行事の実施</li> </ul>	
講座数（年間活動日数）	30 講座（年間活動日数 36 日）

家庭教育支援チーム数	( 1 ) チーム
家庭教育支援員数	( 15 ) 人
子育てサポーター等	( 1 ) 人
実施開始年度 (H26 年)	実施学校区数 (13 小学校区)

### ■活動の具体的内容

#### ○地域人材の養成

##### ・地域教育力向上講座

地域住民が子育て世代の直面する問題について知り、地域の中により多くの子育て支援者を養成すべく実施する。

#### ○家庭教育支援チームの設置・活動

##### ・高島市家庭教育支援チーム「パラソル」

家庭教育に関する相談対応や、親子で参加する取組・講座等の学習機会の提供を行っている。また、相談会・座談会などを開催し、家庭教育支援の拠点活動を行っている。

#### ○学習講座・行事の実施

##### ・子どもにどうかかわりあうか講座

市内小中学校および幼稚園、保育園、こども園の保護者を対象に、発達段階に応じた子育てや家庭教育について学ぶ機会を提供する。

##### ・共育学習会

絵本の大切さや、絵本を通した親子のふれあいについて学ぶ研修会を開催する。



【共育学習会の様子】

### ■特徴的な活動内容

#### ○家庭教育支援チームでは、毎月第1金曜日、第2水曜日、第4土曜日に「ひろばパラソル」と称する拠点活動を開催している。

保護者の気軽な相談相手として、家庭教育支援チーム員が自身の経験から対応し、困難なケースは福祉部局や専門機関に繋ぐこととしている。

#### ○子どもにどうかかわりあうか講座では、地域の公民館と園・学校が連携して企画し、実施している。

### ■実施に当たっての工夫

#### ○子どもにどうかかわりあうか講座では、PTA事業との共催や授業参観に引き続いての開催など、日頃講演会に参加されない方も参加できるように工夫した。

#### ○共育学習会では、図書館と連携して対象者向けの絵本を用意し、学習会をきっかけにさまざまな絵本に触れ合ってもらえるよう工夫した。

### ■事業の成果

#### ○共育学習会では、絵本の読み語りにより親子のつながりが深まることを再確認する機会となった。また、絵本を通じて日常の食事や外出などの習慣についても広げた話ができ、豊かな学びにつながった。

#### ○拠点活動の際に家庭教育支援チームによる親子ヨガや歯科講座などのイベントを開催し、参加者に家庭教育支援チームの取組について知ってもらうことができた。

### ■事業実施上の課題

#### ○福祉部局との連携を深めていくことが課題である。

#### ○講座や研修会等に、積極的に参加しない層への働きかけが重要である。これまで開催した講座のより一層の充実のほか、体制構築の見直しが必要である。

## 日野町における家庭教育支援の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

少子化や核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、子育てを助けてくれる人や子育ての悩みを気軽に相談できる人がいないため、育児不安を持つ親が増えている。また、生活習慣の乱れや経済的な困窮など家庭教育の支援を必要としている家庭もある。これから親になる世代や子育て中の親に対して、親としての力を高めてもらうため、家庭教育の情報や学習機会の提供、相談体制の充実などきめ細やかな家庭教育支援を行うことにより、地域全体で親子の学びや育ちを支えていく必要がある。

### ■家庭教育支援で目指す姿

子どもは地域の宝であり、地域で優しく見守られながら育っていくことが望まれている。「地域で子育て」という誰にでも分かりやすいメッセージを発信し、次代を担う子どもたちに地域全体で関わり育てるという意識を浸透させるとともに、学校・家庭・地域・行政の連携のもと多くの方が関わるなかで、子どもたちが地域の愛情を感じながら心豊かに成長することを目指している。



【親子ふれすて：自由遊びの様子】

### ■本年度の活動

#### (1) 家庭教育支援事業「親子ふれすて」

毎月第1・4金曜日を基本に、子ども同士が遊びを通してふれあうと同時に、親が子育てについて話し合い、悩みを相談できる場所として開催。子育てサポーターの育成も図っている。

#### (2) 学習講座・行事の実施

- ・子育てサロン学習会…全サロン（5サロン）で年1回
- ・就学前学習講座…全小学校（5校）で年1回
- ・PTA等子育て学習会…保育園・幼稚園・小学校・中学校で開催（8講座）
- ・マイナス1歳からの子育て講座…2講座

#### (3) 地域人材の育成

- ・子育てサポーター養成講座…3講座

### ■本年度の成果

- ・親子ふれすてには、毎回10～20組の親子が参加し、親同士の交流・情報交換の場となっており、子育てサポーターが相談に乗ることで問題の深刻化の抑止、予防につながっている。
- ・小学校やPTA、子育てサロンなどと連携して子育て学習会を行うことで、多くの保護者に参加してもらうことができた。



【親子ふれすて：季節の行事】

### ■今後の課題

- ・子育てサポーターなど子育て支援者の確保と育成が必要である。
- ・地域で親も子も孤立しないよう、各種事業等に参加しない人やできない人への対応が必要である。

## 「日野町のたから」を未来につなぐ 心豊かでたくましい人づくり

日野町	
活動内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数（年間活動日数）	22 講座

家庭教育支援チーム数	( 0 ) チーム
家庭教育支援員数	( 0 ) 人
子育てサポーター等	( 13 ) 人
実施開始年度 (H22)	実施学校区数 (5 小学校区)

### ■活動の具体的な内容

#### ○地域人材の養成

子育て支援チーム会議（6回）、子育てサポーター会議（5回）を実施し、庁内の関係者と地域の子育て支援関係者が連携して人材発掘の情報交流の機会をもっている。さらに子育て支援の輪を広げるために子育てサポーター養成講座（3回）を平成30年2～3月に予定している。

#### ○学習講座・行事の実施

子育てサロン学習会（4講座）、就学前学習講座（5講座）、PTA等子育て学習会（8講座）、マイナス1歳からの子育て講座（2講座）を実施している。



【子育てサロン学習会】

### ■特徴的な活動内容

幼稚園や小学校など保護者が集まる機会（授業参観、1日入学など）に、家庭での子どもとの関わり方、子育てで大切にしたいことなど、子育てや家庭教育について学ぶ場を提供している。また、家庭教育の中でも幼児期の育ちが重要で、その親の力を高めていくことが、町のたからを未来につなぐ大きな意味を持つと考え、命の宿ったマイナス1歳（胎内）からの子どもの成長、発達について学び「子育ては楽しくかけがえのないもの！」と思えるパパ・ママをめざそうと「マイナス1歳からの子育て講座」を開催した。

### ■実施に当たっての工夫

子育て応援通信「ゆっくりおおきなあれ」（毎月1日発行）を庁内の子育て関係課（日野町子育て支援チーム）が連携して発行している。町内の子育てサロン事業や親子でつどえる行事などの情報のほか、保健師や図書館司書、臨床心理士から子育てに役立つ豆知識、時期や季節に合わせた内容になるように工夫したり、行事予定をカレンダー化したりすることによって各種のイベントや学習会に参加しやすい情報提供となるように心がけている。

また、「マイナス1歳からの子育て講座」では、父親にもたくさん参加してもらえるように、開催日を土・日曜日に設定した。

### ■事業の成果

#### ○子育てサロン学習会

在宅で子育てをされている保護者が対象であるが、幼稚園（保育所）に通わせている保護者と比べ、保育士などの子育てについて相談できる子育て支援者が少ないことから、日頃の育児不安や悩みの解消に向け貴重な学習機会となっている。

#### ○就学前学習講座

小学校入学という節目を迎える時期にあたり、1日入学などの機会を捉え、この時期に大切にしたい子育てのことやこれからの子どもとの関わり方について学ぶ機会としている。保護者からは「この時期に聞いて良かった」「子どもの良い所、持っている力を伸ばしてあげたい」など概ね高評価を得ている。

#### ○PTA等子育て学習会

実施単位をPTAにすることで、校園によって違う子育ての課題について理解を深める機会となっている。また、保育所の保護者会も対象とし、より多くの方に学習機会を提供することができた。

#### ○マイナス1歳からの子育て講座

父親の子育て参加が母親の負担を和らげ、子どもに関心をもてる気持ちの余裕やそれが子どもにとっても健やかな育ちにつながるなど、父親の育児参加促進には大きな効果が望める。

### ■事業実施上の課題

#### ○各種学習会

地域によって参加率に差があり、今後も参加者が増えるよう呼びかけを工夫していきたい。また、保育所や幼稚園に就園せず、在宅で子育てをしている親子へ、どのように学習機会を提供するかが課題となっている。

#### ○子育てサポーターの育成

ここ数年子育てサポーターの増員が進まず、固定化されたメンバーとなっている。養成講座受講後のサポーター育成に力を注いでいく必要がある。



【マイナス1歳からの子育て講座】

## 竜王町における家庭教育支援活動の取組

### ■家庭教育を取り巻く現状

近年の様々な社会情勢の変化は、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く環境に大きな影響をもたらしている。特に、いじめや不登校に対する対策や急速な情報化社会への対応、家庭や地域の教育力低下に対する対応は喫緊の課題となっている。PTA会員を中心とした住民が地域の絆を深め、子どもや子育て世代の家庭を取り巻く様々な課題の解決につながる活動および啓発を推進する。

### ■家庭教育支援で目指す姿

未来を担う子どもたちを健やかに育むためには、学校・家庭・地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子どもたちを育む体制づくりを目指す必要がある。

そのため、学校・家庭・地域が連携協力し、学習や相談機会を提供することを通じて、子育てについての悩みを共感するだけでなく、同じ子育てをする仲間として互いに支えあえるような保護者同士の関係づくりを支援する。

併せて、子どもたちの夢と希望を育むため、幼小中の子どもを持つ保護者同士の連携を深め、家庭と地域の教育力を高めるとともに、子どもたちの「生きる力」の向上に努める。

### ■本年度の活動

- ・ 随時 運営委員会の開催
- ・ 講師等との事前打ち合わせ会議（意見交換会）の開催
- ・ 案内チラシの作成と広報啓発活動の実施
- ・ 11月18日（土） 竜王町教育フォーラム 2017
- ・ 3月中旬 次年度事業内容の検討会の開催

### ■本年度の成果

#### ○本事業での地域と学校の連携・協働について

「竜王の未来を拓く心豊かでたくましい人づくりをめざして～子どもたちを取り巻くネット社会の問題について考える～」をテーマに開催した町全域を対象とした教育フォーラムでは、ネット社会と子どもたちの実態について学び、理解を深めるよい機会となり、親と子が育つ研修会を開催することができた。

学校園単位で講座・行事等を開催することにより、同じ悩みを抱えている保護者同士の関係づくりやこれからの子育てに生かしていただくための支援をすることができた。

#### ○地域・民間企業・団体等の外部人材の協力・参画や、地域の豊かな資源を活用することについて

大学教授にデータを交え分かり易く御講演をいただき、保護者からは改めて親子で話し合いたいとの感想もいただいた。

お弁当作り講習会では、おかず作りだけでなく、子育てについてのアドバイスや愛情ある接し方等、講師の方々の経験を踏まえて話をしていただき、和やかな雰囲気の中で講習会を開催することができた。

### ■今後の課題

講座・行事等の参加者がまだまだ少ないので、事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を考えていくことが必要である。

ニーズの把握、ニーズに対応した地域人材や外部団体等への依頼の仕方、関わり方が難しい。

## 子どもたちの夢や希望を育もう！

竜王町	
活動内容 <input type="checkbox"/> 地域人材の養成 <input type="checkbox"/> 家庭教育支援チームの設置・活動 <input checked="" type="checkbox"/> 学習講座・行事の実施	
講座数 (年間活動日数)	6 講座 ( 7 日 )

家庭教育支援チーム数	( 0 ) チーム
家庭教育支援員数	( 0 ) 人
子育てサポーター等	( 0 ) 人
実施開始年度 (平成22年度)	実施学校区数 ( 2 小学校区)

### ■活動の具体的な内容

- 家庭教育支援研修会 各学校園において子どもたちの夢や希望を育て、親子が共に育つための研修会を開催する。
- 教育フォーラム 町内PTAを中心とした住民と一緒に参加する研修会を開催することで互いの情報交換を行い、地域・関係団体との連携を深め、地域の教育力を醸成させる。

### ■特徴的な活動内容

#### 【竜王幼稚園】

##### ○お弁当作り講習会

9月5日(火)、12日(火)の午前に開催。対象者は3歳児保護者。3歳児のお弁当開始に伴い、子どもたちへの「食」に対する関心を持ってもらうための「子どもの喜ぶお弁当」「簡単に作れておいしいおかず」「野菜を使ったメニュー」などを習得し、親のお弁当作りへの関心、無理なくお弁当作りに取り組める機会を提供するとともに、食から子育て支援に取り組んだ。



【お弁当作り講習会】

#### 【竜王町PTA連絡協議会・竜王町社会教育委員会・竜王町教育委員会】

##### ○竜王町教育フォーラム2017

11月18日(土)午後開催。対象者はPTA関係者、社会教育関係者、地域住民等。「竜王の未来を拓く心豊かでたくましい人づくりをめざして～子どもたちを取り巻くネット社会の問題について考える～」のテーマに基づき、「ネット社会と子ども達の実態」と題して佛教学、原清治教授にデータを交え分かりやすく御講演をいただいた。また、本年度初めての取組として、「子どもたちを取り巻くネット社会の問題について考える」と題してPTA代表、県PTAスマホ会議委員、中高生を交えたトークセッションを実施した。



【教育フォーラム2017】

### ■実施に当たっての工夫

- 教育フォーラムは、本年度で8回目の開催となるが、新しくトークセッションを取り入れ、子どもの発表をできるだけ多く取り入れるように工夫したことで、親と子がともに考えるフォーラムにできたのではないかと思います。来年度も今回の反省点を踏まえ、よりよいフォーラムを企画できるように取り組んでいきたい。

### ■事業の成果

- 料理のコツや栄養の話、調味料・肉類・野菜の特徴・調理の仕方、子育てについてのアドバイス、お母さんだからこそできる愛情ある接し方等、講師の方々の経験を踏まえて話をしていただき、おかず作りだけでなく、和やかな雰囲気の中で楽しみながら進めることができた。
- 講習会の実施も7年目になり、兄弟がいて複数回参加されている保護者も出てきている。毎回楽しみにされていて、大変よかったという感想も多い。講習会の定番メニューから新しいメニューまで幅広く教えていただけると楽しみにしている保護者も見られた。
- 現在のスマートフォンでのネットいじめについて理解を深めるよい機会となり、保護者からは、家庭でも子どもたちとスマートフォンの使い方や友達との付き合い方などについて親子で話し合いたい、子どもにも講演を聞かせたかったというような感想をたくさんいただいた。一方、教職員からは、グループ間をつなげる「橋渡し型」の力を持つ子ども達を育てていく必要性を感じた。学校だけでなく家庭や地域との連携を持って取り組む重要性を学んだとの感想をいただいた。

### ■事業実施上の課題

- 参加すると「良かった」という感想を持ってもらうことができるが、託児をしていないために下の子どもがいる等で参加者数は限られてしまう。また、講習会の内容を知らないために関心が低いのではないかと。毎年、終わってから講習会の様子やメニューを広報等で紹介しているが、事前に前年度の様子を知らせる等、関心を持ち参加につながる周知方法を考えていくことが必要である。